アンケートフォームにより寄せられた意見等（要旨）

意見等提出期間：令和6年11月19日～12月27日

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
1	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	個々の特性やペースに応じた学びを重視し、皆が同じ場所で楽しめる学校であってほしい。	子どもたちが自らの特性や進度に応じて柔軟に学ぶ「個別最適な学び」を推進していきます。その際、子どもたちの学びが孤立した学びにならないよう、学級や小グループにおいて他者と話し合いや交流しながら学びを深める「協働的な学び」との一体的な充実を図っていきます。	教育指導課
2	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	自主性をはぐくむ目標設定の方針には共感するが、現状課題や改善方針が分からなかった。アプリ等の道具を与えるだけで活用支援がなければ、成果が出にくい。環境整備とともに指導力の向上に力を入れてもらいたい。	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進に当たっては、教員が教える授業から子どもたちが学び取る授業への教員の指導観の転換が課題であると捉えています。教育委員会では、子どもたち一人ひとりが自らの興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択する学習を「自己選択学習」とし、目黒区立学校の全教員を対象にeラーニングの悉皆研修を実施し、その学びの必要性や具体的な指導方法等を周知したところです。また、教育指導課指導主事が学校訪問時に、「自己選択学習」のポイント等を指導・助言しました。引き続き、ICTに関連する環境整備と合わせ、教員の指導力の向上に努めていきます。	教育指導課
3	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	従来の画一的な授業方法から、自らの興味や学びたいことを考慮し、個性を生かした学びへと変わっていくことは非常に良いことだと思う。また、友達やクラスメイトとの協働によって、新しい世界が広がる良い機会になると思う。	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進とともに、子どもたちが多様な他者と協働しながら学ぶ機会も充実させることで、子どもたちの資質・能力を育成していきます。	教育指導課
4	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	ギフテッドの子どもの学びを保証してもらいたい。	個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、児童・生徒一人ひとりがその興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択できるよう、弾力的な教育課程の編成や指導方法について研究を進めています。引き続き、多様な児童・生徒の良さを伸ばしつつ資質・能力の育成に繋げていけるよう取り組んでいきます。	教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
5	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	授業妨害する子どもだけを隔離できる施策を考えてほしい。担任一人では授業が成立せず、普通に授業を受けたい大多数の子どもはストレスを抱える。	教育委員会では、区立小・中学校の通常の学級に在籍している特別な支援を要する児童・生徒に対し、教育的ニーズに応じた支援を行うため、特別支援教育支援員を配置しており、個別指導計画に基づく学級担任の指示の下で対象となる児童・生徒の安全確保、身辺自立支援、コミュニケーション支援、授業参加支援を4つの柱として、学習面及び生活面の支援を行っているところです。あわせて、他の児童・生徒との関係などにより、学級全体への支援の必要性が認められる場合にも、特別支援教育支援員を配置しています。教育の機会均等の観点から授業を妨害する子どもだけを隔離するといったことについては、ご要望に沿えませんが、引き続き、特別支援教育支援員の適正配置に努めていきます。	教育指導課
6	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	現場の教員には取組が浸透しておらず、教員ごとにやり方が異なるため、学校全体の一貫性が欠けているように思う。教員の講習や勉強会を実施し、保護者には具体的な取組を発信してほしい。	「子どもたち一人ひとりに合った学び」を進める上では、教員一人ひとりがその学びの在り方、方法等を深く理解することが必要であると捉えています。教育委員会では子どもたちが一人ひとりが自らの興味・関心や学習上の課題等に応じて柔軟に学びを選択する学習を「自己選択学習」とし、目黒区立学校の全教員を対象にeラーニングの悉皆研修を実施し、その学びの必要性や指導のポイント等を周知したところです。引き続き、研修や学校訪問時の指導・助言を通して教員一人ひとりの指導力の向上に努めていきます。また、各学校に「自己選択学習」を含めた子どもたちの学びの姿を保護者に発信するよう伝えていきます。	教育指導課
7	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	教員の質問へタブレットでリアルタイムに匿名回答できるようにし、オンラインでの授業視聴や宿題提出を通知書に反映するなど、繊細なタイプの子どもたちが学びやすい環境整備を検討してほしい。	教育委員会としては、誰にとっても学びやすい環境を整えることは、重要であると捉えています。 学習用情報端末及びアプリケーションを有効活用した配慮や、不登校等の児童・生徒が行った学習成果の評価を含め、個別の状況に合わせた環境整備に取り組んでいきます。	教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
8	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	勉強が遅れている子どもに対して丁寧に対応するため、自己調整学習の際には大人のサポートが必要である。学習サポーターやサブティーチャーを各クラスに配置し、教員と一緒に子どもたちの学習を支援することが望ましい。放課後に、ゆっくりな子どもたちが前向きに取り組めるフォロー教室も設けるべき。	「子どもたち一人ひとりに合った学び」では、子どもたち一人ひとりの学習状況や理解度を把握することが重要です。こうした学びの中で、教員はこれまで以上に子どもたちの学びを支える伴走者として、子どもたちの適切な見取りと支援が求められます。子どもたちの実態に応じ、学校教育支援員等の補助的教員と連携して、子どもたちの学びを支えていきます。	教育指導課
9	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	最多20人までの少人数学級を実現し、学習やメンタルのフォローにおいて取りこぼしがないようにしてほしい。テストや宿題の採点など教員の負担も軽減できる。	区立小・中学校では、児童・生徒の学習内容の理解の程度等により学習集団を編成し、その特性に応じた指導を行う習熟度別指導や複数の教員で教科指導を行うティーム・ティーチング等、指導面での工夫を行っています。また、授業や授業準備等において教員の業務を補助する様々な会計年度任用職員や有償ボランティアの配置により、指導体制の強化や教員の業務支援を行っています。	教育指導課
10	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	学年ごとに教員を補佐する専門職を置き、対外的な事務連絡や校外学習の調整、授業準備、保護者対応を任せることで、教員が授業準備に専念できるようにしてほしい。	区では、令和6年度に小学校1～3学年いずれかの学年で副担任相当の業務補助を行うエデュケーション・アシスタントを小学校2校で試行実施しており、令和7年度は小学校全校に拡大する予定です。また、学校の教育活動を支援するため、授業準備を補助するスクール・サポート・スタッフ、学生ボランティア、副校長の業務を補助する副校長補佐、区独自の学習指導講師、小1学級支援員、図書館支援員の配置等により、教員全体の業務負担の軽減を図っています。	教育指導課
11	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	日本語が母語でない子が転校してきた際、初めの2～3ヶ月は母語通訳の支援を受けられるようにしてほしい。言葉の理解がないのか、発達に遅れがあるのかの誤判断を防ぎ、担任も助かるのではないか。	日本語指導を必要とする児童・生徒が、日本の学校生活のきまりや生活上の基本的な事項を早期に理解することの必要性について認識しています。日本語での意思疎通が難しい児童・生徒に対しては、学校の要請に基づき、登校初日の朝や学校行事の実施に向けた事前の説明会など1回あたり2時間程度の通訳派遣を行っているところです。また、来日したばかりの児童・生徒に対しては、日本語初期指導を行っています。今後も児童・生徒の実態に応じた支援体制を整えていきます。	教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
12	「子どもたち一人ひとりに合った学び」の推進	平和教育、包括的性教育、市民教育（法哲教育）を体系的に授業に組み込んでほしい。	学校教育における平和教育や市民教育については、小・中学校段階からの体系的な指導の充実等の観点から、学習指導要領に基づき、児童・生徒の発達段階を踏まえ、各学校において、社会科を中心に指導が行われており、包括的性教育については、保健体育科を中心に学習指導要領に基づき、児童・生徒の発達段階を踏まえ、指導が行われています。	教育指導課
13	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	限られた授業時間を有効に使うため、Wi-Fi環境をしっかりと整えてほしい。 ＜計2件＞	次期GIGAシステムでは、全校で文科省推奨帯域に対応した高速大容量ネットワークを実現していくこととしています。	学校ICT課
14	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	教員によっては全く使用せず、子どもがゲームばかりしている現状は、本来の趣旨に合っていないと思う。	各学校では、発達段階や学習内容・学習場面に合わせ、紙とのバランスを考えて学習用情報端末を活用しているところです。また、子どもたちが端末を適切に使用できるよう、各学校では家庭とも連携しながら継続的な指導を行っています。今後も本来の趣旨に沿って適切に使用されるよう、各学校の状況に合わせ、必要な支援を行っていきます。	教育指導課
15	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	Wi-Fi接続で使用するとのことだが、校外学習時は従来通りデータ通信を使用するのか、又はモバイルルーターを持たせるのか。	校外学習の際は、各校に配備するモバイルルーターで対応することとしています。	学校ICT課
16	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	ペアレンタルコントロールの導入とあるが、タブレット本体の使用時間の制限だけでなく、ゲームやYouTubeなどアプリ個別の制限も可能なのか。	タブレット本体の制限だけでなく、個別のアプリに関する時間制限等も行えるよう検討していきます。	学校ICT課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
17	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	全員にタブレットが配布されているにもかかわらず、入院や自宅安静の理由でもオンライン授業を受けることが認められないため、タブレットの活用ができていないと思う。	学習用情報端末を活用した授業等のオンライン配信や担任等との面談については、様々な理由で教室に入れない場合や学校を休んでいる場合に、本人や保護者と相談の上で必要な配慮をもって実施するよう学校に通知しています。 お子様が休む状態に変化がありましたら、オンラインによる学習等への参加等について、その都度、学校にご相談ください。	教育指導課
18	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	低学年にタブレットは不要である。ファイルの整頓方法も教えられていないため、時系列や不要なファイルが混在している。	作成した電子データの管理方法や不要なファイルの削除方法などについては、各学校において発達段階に応じた計画的な指導が行われるよう「目黒区 学習用情報端末活用スキル ステップアップシート」に示しているところであり、必要な情報活用能力が段階的に身に付くよう、引き続き各学校の状況に合わせた支援を行っていきます。	学校ICT課 教育指導課
19	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	小学生は自制心が未熟であり、注意する側もされる側も負担を感じる。学習に無関係なゲームや動画が見られない環境を整えることは、教育委員会の役割だと思う。	学習に無関係なサイトは、予めWEBフィルタリング機能により接続できないようにしています。 また、フィルタリングを回避するサイト等の情報が届いた際は、速やかに接続制限の設定をしています。	学校ICT課
20	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	オンライン学習で正誤が即時に表示されるため、間違いを恐れて回答に時間がかかり、苦手意識を持つようになった。少し間を置いて正誤を伝えるシステムも選択できるようにしてほしい。	現在、区で導入しているデジタルドリルについては、正誤フィードバックのタイミングや種類を選択できる機能が備わっていません。ご要望については、デジタルドリルの提供元に伝えさせていただきます。	教育指導課
21	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	オンライン学習中に画面を近距離で見続けるため、一定時間ごとに目を休めるよう促すシステムを導入してほしい。	端末を利用する際の健康面への配慮については、良い姿勢を保ち、机と椅子の高さを正しく合わせて、目と情報端末等の画面との距離を30センチメートル以上離すことや、長時間にわたって継続して画面を見ないように、20分に1回は、20秒以上、画面から目を離し、できるだけ遠くを見るなどして目を休めること等を「目黒区児童・生徒の情報端末等の使用に関する指針」に明記しており、学校はSNS学校ルールを作成や指導場面において活用しているところです。 学校に必要な支援について、今後も引き続き検討していきます。	学校ICT課 教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
22	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	学習状況を保護者にメールなどで通知するシステムを選択できるようにしてほしい。	現在、目黒区では、児童・生徒一人ひとりの端末から各ソフトウェアの利用履歴を閲覧できるようにしています。保護者にメールなどで通知するシステムについては、今後調査・検討していきます。	教育指導課
23	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	端末と教科書の併用をやめてほしい。どうしても残すのであれば、どちらかのみを持ち帰らせる方法に変更し、子どもの荷物を軽くしてほしい。	学習用情報端末と教科書の併用については、国の動向を注視し、紙かデジタルかといった二項対立の議論に陥ることのないよう、また紙とデジタルのそれぞれの良さを適切に組み合わせて児童・生徒の資質・能力の育成を図るという視点を常に持ちながら、授業を実施しています。 携行品については、子どもたちの発達段階に応じた配慮に努めるよう各校に周知しているところです。引き続き、学校に対して学習上の必要性、通学上の負担等の実態を考慮して適切に判断するよう指導・助言していきます。	教育指導課
24	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	デジタイズ教科書を、子どものニーズに合わせて授業や予習で使わせてほしい。	デジタイズ教科書については、児童・生徒の実態に応じて各学校が活用できるよう、整備しています。 子どもたちの教育的ニーズは一律ではないことから、具体的な活用方法等については、各学校にご相談ください。	教育指導課
25	1人1台学習用情報端末(GIGAシステム)の更新について	不登校や不登校予備軍の児童・生徒が教室以外からオンライン授業を受講した際、条件を満たせば出席扱いになることは良いと思う。今後、技術教科での対応について検討してほしい。	道具の使い方など知識を習得する場合、指導者による手本やデジタル教材の視聴など、オンライン配信にて学習することが可能です。一方、実際に道具を使う学習活動では、道具の準備や安全面の確保の観点から学校以外での実施が難しい場合があります。放課後等に取り組むなど児童・生徒、保護者と相談の上、個別の状況に対応していくことを指導・助言していきます。	教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
26	特別支援教育の推進 目黒区特別支援教育推進計画(第五次)策定に向けた取組	合理的配慮に基づくインクルーシブ教育を行う学校を指定し、区の特分離教育を選択制にしてほしい。子どもたちや保護者、教員、地域が協力して、より良いインクルーシブ教育と心のバリアフリーを目指してほしい。	<p>国や東京都の動向を踏まえ、今回の素案では、共生社会の実現に向けて全ての子どもが可能な限り共に学ぶことに配慮するとともに、自立と社会参加に向けて一人ひとりの教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びの場を充実していくインクルーシブ教育システムを構築していくことを基本的な考え方としています。</p> <p>また、平成31年3月改訂の文部科学省「交流及び共同学習ガイド」において示された交流及び共同学習の意義・目的を踏まえ、「交流及び共同学習の充実」に向けて取り組んでいきます。</p>	教育支援課
27	特別支援教育の推進 目黒区特別支援教育推進計画(第五次)策定に向けた取組	特別支援学級を設置する学校では、特別支援学級と通常学級の子どもの同士の交流がほとんどない。個別に支援を受けることと共に学ぶことのできる環境の双方が必要。	<p>本区では、知的障害特別支援学級設置校及び肢体不自由特別支援学級設置校において、通常の学級と特別支援学級との交流及び共同学習の円滑な実施に努めています。実施に当たっては、学級間または学校間で十分に連携し、個々の実態に応じて様々な配慮や調整を行いながら実施しています。また、令和2年度から交流及び共同学習支援員の職を特別支援学級補助員の上級職として設置し、交流及び共同学習の授業を企画・運営の補助を担い、円滑な実施に向け環境を整えています。引き続き、好事例を共有しながら、各学校で学級や児童・生徒の実態等を踏まえつつ、計画的に実施できるよう取り組んでいきます。</p>	教育支援課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
28	特別支援教育の推進 目黒区特別支援教育推進計画(第五次)策定に向けた取組	支援が必要な子どもたちのために、教員・医療者・療育専門家・特別支援員が情報を共有し、個別の困りごとに応じた専門的な支援を行うとともに、支援員が交代しても差が出ないように効果的な支援を実施してほしい。	<p>児童・生徒が学校生活を送る中で学習面や生活面に係る困難な状況が生じた際には、校長のリーダーシップのもと設置した校内委員会において、当該児童・生徒について把握した情報から具体的な支援策を検討し、児童・生徒一人ひとりの状況に応じて、段階的にサポートすることとしています。さらに、必要に応じて児童・生徒の保護者や、児童・生徒に関わる関係機関と教育的ニーズを整理し、学校全体で対応しています。</p> <p>また、特別支援教育支援員に対しては研修を行い、支援員としての心構えや活動全般の留意事項のほか、学級担任等の指示のもとで支援員が果たすべき役割等への理解を深めています。</p> <p>今後も、支援員への研修等により必要な知識の習得を図るとともに、各校において学級担任等と支援員とが連携して適切な対応がなされるよう、校内支援体制の強化に向けた指導・助言を行ってまいります。</p>	教育支援課
29	特別支援教育の推進 目黒区特別支援教育推進計画(第五次)策定に向けた取組	通常学級の保護者の中には、特別支援学級に対して差別的な発言をする方がいる。差別について保護者が学ぶ機会を設け、支援が必要な子どもたちへの差別が許されないことを啓蒙する必要がある。	<p>第五次計画においては、「推進施策3 心のバリアフリーの推進」で「推進事業10 保護者・区民への理解啓発」を掲げ、特別支援教育講演会の実施のほか、きょういく広報、区報、区ウェブサイト等への掲載、就学相談のしおりや啓発リーフレットの配布など、多角的な理解啓発を進めています。</p> <p>児童・生徒への特別支援教育の理解啓発については、小学校4年生には目黒区社会福祉協議会が作成する福祉体験学習ガイドブック「ともに生きる笑顔のまち」を、中学校1年生には教育委員会が作成する障害に関する理解啓発副読本「Be Together」を配付し、授業等で活用しながら理解啓発を進めています。</p> <p>今後も地域社会全体で共生社会を目指していくため、幅広い理解啓発に取り組んでまいります。</p>	教育支援課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
30	部活動支援の取組	学校規模だけでなく指導教員の経験有無により、部活動が揃っていない場合がある。生徒が希望する部活動に入れるよう、異動時には教職員の経験を考慮してもらいたい。部活動支援の取組は重要であり、教員の負担軽減も大切だと感じている。	<p>教員の人事異動は、各学校の教育課題に適切に対応し、特色のある学校づくりを推進するため、適材適所の配置を行い、教育活動の活性化を図るとともに、望ましい教員構成の確保、教員の人材育成を図ることを目的として実施しています。教員の配置に当たっては、教科指導をはじめとした様々な教育活動を考慮しており、部活動についてもそのひとつとしています。ご要望に沿えない場合もありますが、引き続き、学校教員の適正配置に努めていきます。</p> <p>また、保護者や地域の方の理解を得ながら、児童・生徒や教員、学校にとって望ましい部活動の実施環境の実現に向けた検討も進めていきます。</p>	教育政策課 学校運営課 教育指導課
31	部活動支援の取組	外部から指導者を招くことで、教員は負担が軽減され、子どもたちは専門的な指導を受けることができ、練習時間も増えるというメリットがある。	<p>本年度の部活動支援の取組として、部活動に対する意識や潜在的なニーズを把握するために区立学校の児童・生徒、保護者及び教員を対象としてアンケート調査を実施しました。</p> <p>専門的指導や費用負担等についても、本アンケート調査の結果等を踏まえ、保護者や地域の方の理解を得ながら、児童・生徒や教員、学校にとって望ましい部活動の実施環境の実現に向けて、検討を進めていきます。</p>	教育政策課 学校運営課 教育指導課
32	部活動支援の取組	学校現場の実態や教員の意識が反映されていない。学校管理職の認識の差が部活動の格差を生み出しているため、保護者や生徒に不必要な悩みを与えている。	<p>専門的指導や費用負担等についても、本アンケート調査の結果等を踏まえ、保護者や地域の方の理解を得ながら、児童・生徒や教員、学校にとって望ましい部活動の実施環境の実現に向けて、検討を進めていきます。</p>	教育政策課 学校運営課 教育指導課
33	部活動支援の取組	外部委託によって自己負担が増えることで、経済的な理由で部活動に参加できない子どもが出るのは良くない。参加希望者に公平な機会が与えられるようにしてもらいたい。	<p>外部委託によって自己負担が増えることで、経済的な理由で部活動に参加できない子どもが出るのは良くない。参加希望者に公平な機会が与えられるようにしてもらいたい。</p>	教育政策課 学校運営課 教育指導課
34	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	コミュニティ・スクールの周知が進んでいないため、説明会や勉強会、熟議体験会などを開催してほしい。	<p>教育委員会では、令和6年7月に「地域が応援する学校づくりフォーラム」を実施し、区民の皆様に向けてコミュニティ・スクール等の制度の周知・啓発を行いました。今後も、学校と地域の効果的な連携・協働を推進していくため、教育委員会が学校への伴走支援を行うとともに、保護者や地域の方に向けたちらし等の作成やフォーラム等の実施、学校や学校運営協議会委員等に向けた研修の実施など、周知啓発を図っていきます。</p>	教育政策課 生涯学習課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
35	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	子どもたちと地域の方々の交流が増えること互いに良いことだと思う。災害時には協力し合えるようになる。	<p>コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置する学校）と地域学校協働活動の一体的推進は、学校と地域が育てたい子ども像や学校が抱える課題について共有し、学校の教育課程の改善・充実や地域の参画による多様な教育活動の実施など、学校運営上の様々な活動の充実とともに地域活動の活性化に繋げていく仕組みです。</p> <p>学校運営協議会の委員は、児童・生徒の保護者や地域住民のほか、地域と学校との連絡調整を行う地域コーディネーター、校長経験者や大学教授等の学識経験者など様々な立場の方々によって構成され、多様な視点から協議が行われます。</p> <p>学校と地域の相互の連携・協働のもとに学校づくりと地域づくりを進め、学校・保護者・地域が一体となって子どもたちの成長を支えていけるよう取組を進めていきます。</p>	教育政策課 生涯学習課
36		教員やスクールカウンセラーなどは学校に通わせたいイメージがあるので、そうした方々以外との交流を通じて、学ぶ機会を増やしたい。		
37		学校運営協議会には、地域の人以上にも有識者や教育関係者、子育て支援団体など多様な人材を採用し、地域と連携を図って学校の負担を軽減し、子どもと教員が大切にされる学校を目指してほしい。学校は地域をもっと頼ってほしい。		
38	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進	成功事例から学び、皆で考え創る学校を目指し、不登校や特別支援教室ゼロを実現してほしい。	各校・園に順次設置する学校運営協議会では、学校と地域が一体となって当該校・園の運営や必要な支援に関して協議を行うこととしており、必要に応じて、当該校・園における不登校対策や特別支援教育についての協議も行われるものと考えます。	教育政策課 生涯学習課
39	目黒区立小・中学校の給食	子どもたちにとって、食育は最も大切だと感じている。引き続き、楽しい給食を追求してもらいたい。	学校（園）における食育指針に基づき、今後も給食及び食育の充実に努めていきます。	学校運営課
40	目黒区立小・中学校の給食	給食時間（食べる時間）が15分というのは短すぎるように思う。	給食の時間については、各学校で設定をしています。 どのくらいの時間とするかについては、子どもたちが給食を食べ終えるために必要な時間、個々への配膳にかかる時間、片付けの時間等を考慮しつつ、一日の時間割全体のバランスも踏まえて設定しています。教育委員会としては、子どもたちが慌てて食べたり、不安を感じながら食べたりすることとならないよう、各学校に働きかけていきます。	学校運営課
41	目黒区立小・中学校の給食	不登校の子どもたちに、給食の提供ができるような工夫をしてほしい。	現時点では、めぐろエミールでの給食の提供は行っていませんが、ご意見の趣旨については、今後の研究・検討の課題とさせていただきます。	学校運営課 教育支援課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
4 2	目黒区立小・中学校の給食	めぐろエミールでも給食を提供してほしい。難しい場合は、学童で導入されている宅配弁当を注文できるようにしてほしい。 ＜計 2 件＞	めぐろエミールに通室する児童・生徒については、心身の体調変化から通室が不安定である場合や、めぐろエミールで過ごす時間もその日に急に変更となることなどがあります。現時点では、めぐろエミールでの給食の提供は行っていませんが、ご意見の趣旨については、今後の研究・検討の課題とさせていただきます。	学校運営課 教育支援課
4 3	目黒区立小・中学校の給食	各校に栄養士を配置し、手作りにこだわる学校給食は素晴らしい。このまま自校調理を継続してほしい。	今後も栄養士の全校配置を活かした自校調理により、安心・安全で魅力ある学校給食の提供に努めていきます。	学校運営課
4 4	いじめ問題への対応	低学年からいじめ防止の取組が必要で、学年が上がるにつれ友人関係の悩みが増加している。道徳や心の成長に対する支援が重要だが、先生により対応が異なり、子どもが相談を諦めている場合もある。	各学校では、いじめ防止の取組について、いじめはどの子どもにも起こり得るとの認識の下、教職員が組織的に進めているところです。 各学校では、相談しやすい環境の中で、いじめから子どもを守るため、重層的な教育相談体制を構築しています。 具体的には、学校生活アンケートを年 3 回以上実施するほか、児童・生徒の学習用情報端末から直接悩み相談の受付を行う「めぐろそうだんポスト」など複数の相談窓口について周知するとともに、不安や悩みがある場合には、身近な信頼できる大人に SOS を出すことの大切さについても指導しています。 引き続き、各学校に対し、教職員が日常から、子どもの存在そのものを肯定的に受け入れ、傾聴、共感するなど、カウンセリングの視点に立った子どもとの関わりを大切に、教育者としての人間観や教育観を深め、より一層の指導力を磨くよう指導・助言していきます。	教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
45	いじめ問題への対応	学校での道徳教育や話し合いが不足しており、子どもたちはトラブルに対処できず、学校に行くのが難しくなっている。また、いじめを助長する環境や偏見も問題で、教員への信頼が低下している。学力も低下しており、勉強や部活に力を入れることで、いじめの減少や学力向上、協調性の育成が期待できるのではないか。	いじめの減少や学力向上、協調性の育成に向けては、まず、子どもが安心して生活できる学級・学校風土の創出が必要であると認識しています。 引き続き、各学校に対して、「学び合いのある授業」を中核として、学校行事や部活動等を含めた全教育活動を通して、子どもたちに人権意識や規範意識を身に付けさせるとともに、豊かな人間関係の中で、自己肯定感を高めたり、自尊感情を育んだりする指導を重視するよう指導・助言していきます。	教育指導課
46	いじめ問題への対応	学校が区にいじめとして報告した件については、その旨をいじめの加害者の保護者にも伝えるべきだと思ふ。	各学校は、法の定義に照らして認知したいじめ全件について、所定の様式にて区に報告をしています。 学校がいじめを認知した場合、被害及び加害の子ども双方が安心して学校生活を送ることができるようにすることを目指し、双方の保護者に「学校いじめ防止基本方針」に基づいた対応を行っていくことについて理解を得るとともに、いじめの事案に係る情報を適時適切に共有するよう指導・助言していきます。	教育指導課
47	いじめ問題への対応	（問題の発生について）保護者には即座に連絡してほしい。相手方が真摯に対応しない場合は、警察への被害届を提出することを勧めてほしい。	児童・生徒間トラブルが発生した際は、家庭と学校が連携して問題解決に向かうため、事案の発生や学校が把握した事実だけでなく、指導や対応の方針について説明を行い、理解と協力を得るよう指導しています。 なお、各学校では、所轄警察署とは年間を通して連携を図っており、いじめを含む問題行動等への対応に関する相談も、必要に応じて行っているところです。	教育指導課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
48	いじめ問題への対応	問題が発生した際には、加害児童がいじめや暴力、犯罪が許されないことを理解するまで丁寧に指導し、スクールカウンセラーとの面談や教室訪問を必須とする学校運営を目指すべき。また、支援員によるいじめや暴力防止の指導を可能にしてほしい。	<p>加害児童に対しては、いじめや暴力、犯罪が許されないことのみならず、被害児童の心身の苦痛が十分理解できるよう指導し、二度と同様の行為を行わないよう反省させる必要があると認識しています。</p> <p>加害児童の心情的背景や特徴等を踏まえながら、スクールカウンセラー等の支援を受けながら、指導や更生に向けた取組を進めていきます。</p> <p>いじめ問題の対応については、学校の教職員が中心となり、「学校いじめ対策委員会」で協議した方針に基づき、組織的に指導等を行うものと認識していますが、保護者、地域、関係機関と連携を図り、多角的な視点から、いじめの実態やいじめにつながりかねない児童・生徒の状況等について、日常的に情報を共有できる体制を構築しておくことが重要です。そのため、教育活動に関わる支援員に対しても、いじめや暴力を含めて、児童・生徒の様子で気になることあれば、どんな些細なことでも報告することを求めるよう指導・助言していきます。</p>	教育指導課
49	不登校児童・生徒への取組	統合校では生徒数が倍増し、音に敏感な生徒にとって厳しい環境になる可能性があるため、校内フリースクールのようなスペースを設けて居場所を作ってほしい。	令和6年度から区立中学校全校に校内別室を設け、一時的に教室に入れない生徒や不登校の生徒の対応を行っています。音に敏感な生徒への配慮としては、保護者の協力も必要ですが、これまでも廃棄するテニスボールを譲り受け、椅子の足に付けるなど、各校が要請に基づき対応しています。統合新校においても、必要に応じて学校にご相談ください。	教育支援課
50	不登校児童・生徒への取組	一斉授業に加えて多様な学びを認め、フリースクールの学費補助など支援の仕組みを整えてほしい。	<p>児童・生徒一人ひとりに合った多様な学びについては、各校の授業改善等に取り組むとともに、区でも校内別室の設置など学校を支援しています。</p> <p>フリースクール等の学費補助は、都が実施しており、必要とする保護者へ情報が確実に伝わるよう、学校を通じた連絡手段や広報等、複数の方法で取り組んでいきます。</p>	教育支援課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
5 1	不登校児童・生徒への取組	保護者同士の意見交換会を開催し、孤立しがちな環境を改善するための機会を設けてほしい。	令和6年4月に「不登校児童・生徒の保護者のためのガイド」を公開し、相談先についてご案内しています。また、当事者の直接の声を伺う目的で令和6年9月に「不登校について考える講演会」を開催しました。このような機会により意見交換をするなど工夫していきます。	教育支援課
5 2	不登校児童・生徒への取組	保護者が相談先を知らずに孤立していることが多いため、学校から保護者への情報発信を強化してほしい。	令和6年4月に「不登校児童・生徒の保護者のためのガイド」を公開し、相談先についてご案内しています。学校には、不登校で悩む保護者へ寄り添い、連絡を密にとるよう引き続き指導していきます。	教育支援課
5 3	不登校児童・生徒への取組	発達障害等への理解を深めるため、教育委員会は教育関係者に知識の重要性を伝え、教育弱者が排除されない環境を作ってほしい。学校への恐怖心とその後の生活に影響を与えることを考慮し、現場の教員の意見を聞きつつ、教育委員会が児童・保護者と教員の架け橋となる役割を担ってほしい。	発達障害等への理解を深めるため、教員研修を実施しています。また困っている児童・生徒に寄り添い支援するよう研修の中でも伝えていきます。 令和6年7月からは、児童・生徒が必要に応じて直接相談を求められる「めぐろそうだんポスト」の運用を始めています。 また、身近な担任や学年の教員にもご相談いただくほか、各学校に配置されたスクールカウンセラーにも、ぜひご相談ください。	教育支援課
5 4	不登校児童・生徒への取組	不登校支援の情報が本人や保護者に届いていない。	令和6年4月に「不登校児童・生徒の保護者のためのガイド」を公開し、相談先についてご案内しています。保護者連絡システムを用いて通知するだけでなく、当該システムに登録していない保護者へは各校から知らせるように依頼しました。今後も機会を捉えて情報提供に努めていきます。	教育支援課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
55	不登校児童・生徒への取組	不登校が増えている原因についての考察が必要であり、原因が子ども自身や家庭にあるのか、または現在の教育環境や教室のあり方に問題があるのかを考えるべきであり、その考え方についても発信してほしい。	不登校に対する教育委員会の姿勢は令和6年4月に公開した「不登校児童・生徒の保護者のためのガイド」で示したとおり、困っている児童・生徒、保護者に寄り添い、今後のことを一緒に考えていきます。 不登校の要因は、児童・生徒一人ひとり様々であり、個々に丁寧に対応していくことが大切であると捉えています。また、児童・生徒一人ひとりにあった多様な学びや居場所づくりが必要と考え、複数の小学校を教育開発指定校に指定し、研究していきます。研究成果を全小・中学校と共有していくことと合わせ、保護者等へも伝わるように努めていきます。	教育支援課
56	不登校児童・生徒への取組	常駐の専属カウンセラーや学習サポートをしてくれる教員がいてほしい。	スクールカウンセラーは各校2～3名体制で3日配置しています。また、学習サポートとしては学習指導員を配置するなどしており、今後も継続していきます。	教育支援課
57	不登校児童・生徒への取組	子どもたちには、学校に通えない場合にも居場所が必要であり、選択肢の提供が重要である。具体的には、学校司書の常駐による学校図書館の活用、児童館の情報提供、オンラインスクールのアバター参加、国内留学、隣接校への転校の簡易化、不登校特例校の新設などの施策を実施してほしい。中学校までは義務教育であり、その責任が行政にあると考える。	一時的に教室に入れない児童・生徒や不登校の児童・生徒だけでなく、児童・生徒一人ひとりに合った多様な居場所が必要であると捉えています。学校内外での様々な取組について、他の自治体の先行事例も含め調査・研究し、本区の実態に合った実効性のある取組を検討し、実施していきます。	教育支援課
58	不登校児童・生徒への取組	教室に入りづらい子どもたちのために、全ての学校に居心地の良い別室を設け、公設のフリースクールや公共施設を活用した多様な居場所を民間と連携して作ってほしい。		
59	不登校児童・生徒への取組	不登校の子ども同士の間人間関係に課題がある場合もあるため、校内に安心して過ごせる場所を複数設置してほしい。		
60	学校施設の整備・改善	子どもたちが集中して勉学に励めるよう、環境改善に努めてもらいたい。	老朽化した学校施設や空調設備の計画的な更新を進めていくとともに、各校の状況に応じて個別の環境改善を図るなど、子どもたちにより快適な学習環境を提供できるよう努めます。	学校施設計画課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
6 1	学校施設の整備・改善	給食室のエアコンを引き続き改善してほしい。	令和6年度には下処理室に空調設備を設け、労働環境の改善を図りました。今後、調理室の環境改善に向けて、他自治体の取組も参考にしながら検討を進めていきます。	学校施設計画課
6 2	学校施設の整備・改善	いじめや暴力が増加していることから、今後建設する学校は死角をなくし、見回りしやすいガラス張りの教室や図書室を設置してほしい。	児童・生徒間のトラブル発生防止という点も踏まえ、大人の目が届きやすい空間づくりを進めていきます。	学校施設計画課
6 3	学校施設の整備・改善	可動式扉を設置し、オープンな空間と静かな教室の両方に対応できるようにしてほしい。	学校の建て替えに当たっては、オープンな利用と空間を区画した利用の双方を想定した計画を検討し、多様な教育環境の確保に努めていきます。	学校施設計画課
6 4	図書館での子どもの読書活動の充実に向けて	公共図書館と学校図書館が連携し、選書や人材、イベントなどの面で公共図書館のスタッフが学校図書館を支援してほしい。	「子ども読書活動推進計画（仮称）」の策定作業の中で、学校等との連携についても検討します。	八雲中央図書館
6 5	図書館での子どもの読書活動の充実に向けて	学校の図書は痛みが激しく、クラス文庫は廃棄図書の集まりになっている現状を理解してほしい。絵本以外の学童期の図書も重要である。	各学校に割り当てられる予算の範囲内で、適宜クラス文庫を含む学校の図書の更新を行っています。 また、選書については、各学校において、バランス等を考慮して行っています。	学校運営課 教育指導課
6 6	図書館での子どもの読書活動の充実に向けて	ぬいぐるみのおとまり会はとても素敵な企画だと思った。今後も続けてほしい。 ＜計2件＞	今後も、春のこども読書週間や夏休み期間に、ぬいぐるみのおとまり会に限らず、子どもが本に親しむことに繋がる企画を実施していきます。	八雲中央図書館
6 7	教育施策説明会	教育施策説明会において、質問時間45分で質問者4名となり、参加者全員の意見や質問を聞くことなく終了したのは残念だった。説明時間を割愛して質問時間を90分とするか、延長を検討してほしい。 ＜計2件＞	説明会の時間配分の中で、質問時間をこれまでより長くとれるように検討します。	教育政策課
6 8	その他	警備の試験的導入は良かったが、スクールゾーンの時間が午前5時間制の授業で15-17時ではなくなってきたため、実情に合わせて修正してほしい。	スクールゾーンの交通規制に係る時間帯の変更については、当該地域の沿線にお住まいの全ての方から合意形成を得たうえで学校、PTA、地域団体等の連名で要望書を警察へ提出する必要があります。 一連の手続きは学校・PTA等が主体となって実施していただくものとなりますが、教育委員会としても必要な支援を行っていきます。	教育政策課

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回答
69	その他	宿題をなくしてほしい。やらされている感が強く、学びが身につかないように感じる。	宿題は、学習習慣と学習内容の補充を目的として各学校で子どもたちの実態から内容、方法、量等を決めています。その際、家庭との連携を十分に図ることが重要であると捉えています。また、実態に応じて各学校が宿題の意義やその適切な在り方を見直したり、子どもたち一人ひとりの学習状況等に応じた量や内容になるよう宿題の出し方を工夫したりすることも必要なことであると考えています。宿題の在り方については、各学校にご相談ください。	教育指導課
70	その他	中学生も放課後に学校外の人との繋がりや、気分転換できる場所を提供してほしい。	近隣の児童館・社会教育館・図書館等がご指摘いただいた機能を有する場所であると認識しています。今後も、区として中高生が気軽に集える居場所の確保に取り組んでいきます。	生涯学習課
71	その他	教員の負担軽減の次に、教育の質の向上を求めたい。	教職員が子どもと向き合う時間を創出するとともに、心身の健康、誇りとやりがいをもって勤務できる環境を確保する目的から、令和5年2月に「目黒区立学校・園における働き方改革実行プログラム」を改定し、取組を進めているところです。 教育委員会としては、引き続き、教員が専門性を十分に発揮し、誇りとやりがいをもって教育に力を注ぐことができるよう、教員の働き方改革をさらに進め、子どもたちの豊かな学びと成長に資する質の高い学校教育を安定的・持続的に実施してまいります。	教育指導課
72	その他	教室だけでなく、野外で様々な体験を通じて自ら体を動かして学ぶことが理想であり、田畑での園芸活動が良い学びになると思う。	知・徳・体を一体的にはぐくむためには、教室だけの学びに留まらず、自分の感覚や行為を通して理解する実習・実験、地域社会での体験活動、専門家との交流等、様々な場面でリアルな体験を通じての学びも重要であると捉えています。引き続き、学校に対して体験的な活動も重視するよう指導・助言してまいります。	教育指導課
73	その他	図書館に新しい紙芝居を追加してほしい。	今年度も紙芝居を新規に選定し購入しています。今後も継続して購入してまいります。	八雲中央図書館

番号	項目	意見等（要旨）	教育委員会の考え方	回 答
74	その他	教育だけでは解決できない問題に対し、福祉部門や医療機関、児童相談所、警察署などが連携して取り組むべきである。道徳の授業だけでは不十分であり、問題のある子どもや保護者に対しても総合的に行政機関が監察する必要がある。	学校を取り巻く課題は複雑化・多様化しており、教育部門だけでなく、様々な関係機関と連携・協働して取り組んでいく必要があります。特にいじめ問題などで子どもの命に関わるような緊急かつ重大な問題については、児童相談所や警察署と密に連携を取って迅速に対応していきます。	教育政策課

寄せられた意見等86件（うち、説明会場での意見と同意見8件）

*複数の意見等が記載されていた場合は、項目ごとに分けて掲載しています。